

A-75 調理済食品の選択子について  
学習院短大 矢崎美智子

私共は昭和52, 54年度私学研修福祉会の研究助成をうけて既製衣販および調理済食品の利用に関する調査を行ない、53年度の本学会総会で結果を年齢階層別に報告し、昨年家庭外活動状況、生活レベル別などさらに検討した。本年は昨年につづいて調理済食品を利用する理由、しない理由を選択行動を決める選択子としてとらえ、これについて相関係数の形で計量し、因子分析を適用した。その結果いくつかの選択子について高い相関係数がみられた。また、因子分析の結果、便利さ、争間や時間がはぶけるなどの簡便性は各々独立した軸上にあり、これと対応する選択子もそれぞれ異なったものであることがわかった。さらに予備調査の結果から設定した6種類の調理済食品について、それぞれの因子についての評価点を検討した。ことにお惣菜のマイナス要因の評価点が高い。